

秦野市と小田急電鉄株式会社との小田急小田原線沿線まちづくりの推進に関する連携協定

1 背景・目的

- 昭和2年の小田急線開業以来、秦野市内には4駅（鶴巻温泉駅、東海大学前駅、秦野駅、渋沢駅）が開設され、首都圏のベッドタウン的に各駅を拠点として発展した。
- 秦野市民にとって、小田急線は最も身近な交通手段として生活に不可欠なものとなっており、4駅及びその周辺の整備は、秦野市民の生活利便性・安全性の向上に直結する。また、秦野市において都市機能に係る立地適正化を推進する上でも、駅及び駅周辺の機能向上は不可欠である。
- 小田急電鉄においては、平成30年3月に都心近郊区間での複々線の完成を予定しており、これにより、ラッシュ時間帯の都心方面への所要時間短縮が図られる。あわせて、秦野市内では平成32年度の新東名高速道路秦野SA及びスマートICの供用開始が見込まれているなど、広域交通拠点としてのポテンシャルが飛躍的に高まることが期待されている。
- 上記の状況を踏まえ両者が連携・協力して、相互の付加価値を高めることを目的に、連携協定を締結する。



2 連携・協力の内容

- ・ 駅の機能向上及び駅を中心としたまちづくりに関すること
- ・ 地域の活性化及び地域の魅力発信に関すること

3 具体的な連携・協力事項

- ・ 駅の機能向上及び駅を中心としたまちづくりに関すること

- ① ホームドア整備の検討などホームの安全性向上に関する連携・協力
- ② 誰もが安心・便利に利用できる駅機能の高度化に関する連携・協力
- ③ 鶴巻温泉駅における南口広場整備事業と駅改良工事の推進に関する連携・協力
- ④ 踏切安全対策や横断管路の耐震化など鉄道や地域の安全性向上に関する連携・協力
- ⑤ 公共交通機関案内板整備など駅周辺の案内に関する連携・協力
- ⑥ 4駅を拠点とした「コパ・外・プラス・ネットワーク」のまちづくり実現に関する連携・協力



駅の安全性を向上させるために検討するホームドアのイメージ。



現在、事業中の鶴巻温泉駅南口駅前広場整備事業の完成予想図。



- ・ 地域の活性化及び地域の魅力発信に関すること

- ① ロマンسカーを活用したイベントの開催など地域の活性化に関する連携・協力
- ② 駅空間や車両を活用した地域資源のPRに関する連携・協力



駅空間、車両を活用して、秦野市の魅力を沿線全体にPRする。